

今週のメニュー

■トピックス

◇藤井新会長挨拶／第27回 塩ビ工業・環境協会 総会・懇親会を開催

■随想

◇「私、テレビを持っていないので」

グラフィックデザイナー・ライター 竜崎 友治

■トピックス

◇藤井新会長挨拶／第27回 塩ビ工業・環境協会 総会・懇親会を開催

5月16日に塩ビ工業・環境協会 第27回通常総会を開催いたしました。今年度は役員の変更期にあたり、藤井一彦会長（株式会社カネカ代表取締役社長）、西原浩孝副会長（株式会社トクヤマ常務執行役員）が新しく就任いたしました。

総会に引き続いて開催されました懇親会には官庁、報道関係、関係業界などの方々にご参加いただきました。藤井新会長の挨拶に続いて、来賓の経済産業省製造産業局 浦田審議官から祝辞をいただき、西原新副会長の発声で乾杯のあと、歓談に移り、盛会のうちに終了いたしました。以下に藤井新会長の懇親会での挨拶を掲載いたします。

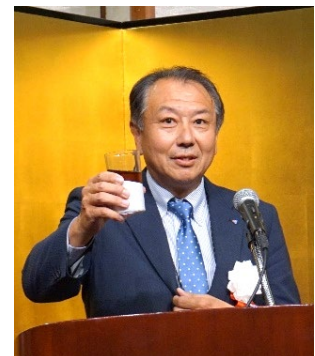


浦田審議官



藤井新会長

「第27回総会におきまして、栗田会長の後を受け、「塩ビ工業・環境協会」の会長を拝命いたしました株式会社カネカの藤井でございます。また、副会長には株式会社トクヤマの西原様が就任いたしました。新体制においても会員一同、塩ビ産業の発展のために全力で取り組んで参りますので、皆さまの一層のご助力・ご指導をお願い申し上げます。



西原新副会長

2023年度の塩ビ樹脂の状況は、年度計で生産150万トン、国内出荷87万トン、輸出61万トン、出荷総計149万トンと、国内出荷を除いては前年度比増となりました。2024年度は、半導体不足の解消による自動車の生産台数の回復やインバウンドを含む国内消費の回復に期待したいところです。

一方で、塩ビ樹脂をはじめプラスチックを取り巻く環境は、「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」施行をはじめ、2050年度カーボンニュートラルの実現に向けた動きや海洋プラスチック問題など、引き続き当業界にとっても厳しい状況にあります。

このような背景のもと、2024年度の協会活動においては、世界的潮流を的確にとらえ、LCAの観点や耐久消費材としての塩ビ製品の長寿命性、さらに省資源性、リサイクル性能や難燃性能などの優位性を最大限アピールし、塩ビが循環経済の実現やカーボンニュートラル実現への貢献に最適な樹脂であることを実証、発信して参ります。

【広報活動】

塩ビ製品の需要拡大やSDGsへの貢献に向けて、訴求力のある広報・啓発活動を推進致します。特に若年層と主婦層への訴求を主眼にSNS媒体やショート動画などの活用を強化してまいります。また、昨年好評であった出前授業等の拡大にも注力し、塩ビに対する正しい理解の普及促進を図って参ります。



また、2024年度は環境展（エコプロ2024）へ出展し、塩ビ製品の社会への貢献や新たな可能性を強力にアピールして参ります。

【建材の開発と普及促進】

2050年カーボンニュートラル実現に向けての最重要課題である住宅での遮熱・断熱性能向上による省エネルギー化に対して、開口部周辺での塩ビ建材の採用が大きく貢献し得ることを最大限にアピール致します。

【リサイクル推進活動】

これまで取り組んできた樹脂窓リサイクル検討委員会、塩素循環検討会及びリサイクル支援制度の運用を主たる3本柱として循環経済化への貢献を追求して参ります。樹脂窓リサイクル検討委員会では、経済合理性のあるリサイクルシステムの構築、塩素循環検討会では、実用レベルでのケーススタディや事業化検討の方向性を定めて参ります。

【国際会議】

世界的な規模で化学物質に対する規制の動きが加速するなか、各種国際会議に積極的に参加し、グローバルな塩ビ産業振興活動に貢献すると共に、化学物質管理、環境関連、労働安全衛生等に係る各種法規制情報の収集と共有化に努め、必要に応じた対応を実施して参ります。

最後に、塩ビ産業の益々の成長と発展を祈念致しますとともに、本日ご列席の各社様の益々のご発展と、ご参集の皆様のご健康、ご多幸を祈念致しまして、私のご挨拶とさせていただきます。ご清聴有難うございました。」

■ 随想

◇ 「私、テレビを持っていないので」

グラフィックデザイナー・ライター 竜崎 友治

何人かで話していると、表題の発言を最近多く耳にするように感じる。

「あの番組に出ている俳優さんだよ」

「私、テレビを持っていないので」

「〇〇ってドラマ観た？」

「私、テレビ（以下略）」

「CM やってるあの商品ってどう思う？」

「私（略）」といった具合だ。

テレビを持っていない（観ていない）ことを責めるつもりはないが、このタイプの人は何人で話していても、容赦なく会話をぶった切る。

場の空気を読んで、適当に話を合わせることはできないのかとも思うが、中にはテレビを見ないことに優越感を覚えているタイプも見受けられる。Webがあれば必要ないけど、と言いたげな人も散見される。きっと「テレビを持たないでWebだけで済ませる俺カッケェ！」とか中二みみたいなことを考えているに違いないんだ！
← 錯乱
はあはあ、ちょっと落ち着こうか...



テレビを持たない理由は様々で、経済的またはスペースの都合などで購入していない場合や、Webで情報収集できれば十分との考えもあるだろう。（後者の場合は会話をぶった切った時点で不十分といえるが）

さて、会話をうんぬんは別にして、実際にテレビは不要なものだろうか？

所有しない人の大半は、Webによる情報収集で不足はないと考えているだろうが、その情報源には内容が偏るリスクが潜む。

テレビはチャンネルや番組の選択はするものの、CMなどが勝手に流れてくるパッシブ（受動的／受け身）な情報源だ。それに対しネットは自分で選択して閲覧するため、アクティブ（能動的／積極）な情報収集となる。アクティブといえども聞こえは良いが、基本的に自分の好きなまたは興味のある情報だけを追うことになる。

「いや、自分は遍くニュースを閲覧している」と主張する人もいるだろうが、それには相当な努力を必要とするだろうし、そこまで視野が広いのであればテレビも見るだろう。

対してテレビによるそれは、無駄や興味のない（と思っている）情報も流れてくるため、新しい「気づき」もあり、新たな興味が生まれ、世界は広がる傾向だ。しかし Web のそれは、興味のあるものしか見ないため、世界は狭まり深化する。乱暴な言い方をすると「テレビは浅く広く」「Web は狭く深く」となる。

また、ネットで情報を追うことは「確認バイアス」の危険性をはらむ。これは、自分の考えを検証するにあたり「都合の良い情報」のみを集め、反する情報は無かったものとして取り入れない、ひどい場合は反証を陰謀扱いまでする認知バイアスの一種だ。いまだに支持されている「血液型占い」がその好例で、血液型が性格に影響するなど医学的に全く根拠のない話だが、よく当たると信じている人が多い。あれは聞いてみて当たってなかったら話題を変え、外れたことをカウントしないからで、当たった時だけデータとするからだ。（血液型占いは日本独自の迷信で、あるアメリカ人は「Japanese bloodtype analysis」だと言っていた。わざわざ「日本の」って前置きするようなものなんですね）

話を元に戻そう。確認バイアスのリスクに加え、Web のトラッキング機能（ユーザーの履歴などを追跡・分析し、広告表示などで反映させる機能）が偏向に拍車をかける。コンピュータ黎明期に革新を巻き起こした、ウィリアム・H・ゲイツや二人のスティーヴも、こんな時代になるとは思ってもいなかっただろう。

しかし、Web はテレビで得られないような詳細な情報や、その根拠となるソースを知ることができ、そこが大きなメリットだ。テレビの場合も局による偏向報道など、油断できない面もあるため、テレビで知ったことを Web で詳細を調べるといった情報併用が好ましいし、事実そうしている人が大半だろう。どちらか優劣をつけないと気が済まない狭量さが問題なのだ。

ニュートラルに物事をとらえることができれば、どちらかに決めつける事無く、バランスよく情報を得て、客観的に判断が下すことができる。客観的になれば「他人にどう聞こえるか」「どう見えるか」がわかり、行動や発言の指針となるだろう。

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783